

事務事業マネジメントシート(平成31年度実績と令和 2年度計画)

令和 2年12月25日更新

事務事業名		公営住宅維持管理事務事業						☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	4 生活環境の健康						所属部	都市建設部	課長名	衛藤 文明
	施 策	18 住環境の充実						所属課	都市計画課	担当者名	坂本 美由紀
	施策の柱	57 公営住宅の充実						所属班	建築住宅班	(内線)	5265
予算科目		会計一般	款 8	項 5	目 1	事業連番 10158	根拠法令	公営住宅法・特定優良賃貸住宅の促進に関する法律・合志市営住宅 条例			
終了、開始年度		☐ 31年度で終了 ☐ 31年度から開始						事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	公営住宅及び特定公共賃貸住宅の補修を行う。補修を要望するものからの連絡により実施する。消防用設備やエレベーターの保守管理を実施する。昭和32年に旧西合志町で旧御代志住宅を建設し、公営住宅の維持管理事務が開始された。現在の入居者からは床や屋根、設備の修理の要望が多く、修繕費用が高額になってきている。今後も「合志市公営住宅等長寿命化計画」に基づき維持管理を行う。
【業務の流れ】	入居者からの連絡により補修箇所を現地に確認し、直接又は業者に補修を依頼し施工する。
【主な予算費目】	旅費・需用費・役務費・委託料・使用料及び賃借料・工事請負費・原材料費・負担金補助及び交付金
【意見や要望】	入居者より台所及び風呂・トイレなど水周りの補修要望が多くあがってきている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 31年度実績(31年度に行った主な活動) (DO)		2年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
補修を必要とする入居者からの相談を受け、現地を調査確認のうえ補修を適時行った。また、除草作業や樹木管理の環境整備、エレベーターや消防設備の法定点検などの維持管理業務を適正に行った。サン・ヒマワリあいおいの底地について、賃貸借であったが交渉を行い購入した。公営住宅等長寿命化計画の見直しを行った。		市営住宅の補修を要望する入居者からの連絡により、現地の確認を行い、長寿命化計画に基づき維持補修を行う。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 件	予算の主な増減の理由
⇒ ア 修繕費・維持工事の件数	件	サン・ヒマワリあいおい底地購入費(公有財産購入費)の減
⇒ イ		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等住宅の補修を要望するもの。		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
		(単位) 件
		⇒ ア 必要な補修の要望件数
		⇒ イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)安全に住むことが出来る。		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
		(単位) %
		⇒ ア 必要な補修が出来た割合
		⇒ イ
*③成果指標設定の理由と 2年度目標値設定の根拠		総トータルコスト全体計画 ~ 年度
市営住宅に安全で快適な状態で居住できているかを判断するため、補修要望への対応を成果指標に設定した。		0

(2) 各指標・総事業費の推移											
		単位	29年度 実績(決算)	30年度 実績(決算)	31年度 目標(当初予算)	31年度 実績(決算)	2年度 目標(当初予算)	3年度 予定	4年度 見込	5年度 見込	
① 活動指標		ア 件 イ	63	58	80	69	80	80	80	80	
② 対象指標		ア 件 イ	63	58	80	69	80	80	80	80	
③ 成果指標		ア % イ	100	100	100	100	100	100	100	100	
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円	5,649	5,126	3,434	3,456	1,052	3,682	1,052	1,052
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円	805	5,527	32,628	5,867	6,642	12,551	6,523	6,523
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	5,037		1,900	32,419				
		(A) 事業費計	千円	11,491	10,653	37,962	41,742	7,694	16,233	7,575	7,575
		(A)のうち指定経費	千円	18	18	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4	4	4
		延べ業務時間	時間	850	1,145	1,200	1,503	1,200	1,200	1,200	1,200
	(B) 人件費計		千円	3,362	4,513	4,780	5,956	4,780	4,780	4,780	4,780
トータルコスト(A)+(B)		千円	14,853	15,166	42,742	47,698	12,474	21,013	12,355	12,355	

事務事業名	公営住宅維持管理事務事業	所属部	都市建設部	所属課	都市計画課
-------	--------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は31年度の事後評価、ただし複数年度事業は31年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①31年度目標達成度評価	☒ 達成した 随時対応しているため達成。	☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②2年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 要望に対し現地を確認のうえ、必要に応じ随時補修を行うため目標達成は可能である。	☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 必要に応じて補修をしているので、向上の余地はない。	☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない。	☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 老朽化による補修費用の削減を図るため、職員で出来る範囲での補修を行なっているので削減の余地はない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 すでに職員削減を行い、補修の外部発注を行っているので、削減の余地はない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 入居者からの要望により、長寿命化計画に基づき補修を行なっているので公平である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 維持管理も含めた委託により、団体等へ移行可能と思われる。	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（CHECK）

各施設の老朽化のため補修要望が増えてきており、費用が増加傾向にある。今後は公営住宅等長寿命化計画に基づき計画的に維持管理を行なっていく。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

</